

新規恒久施設の施設運営計画(概要)

1 施設運営計画について

- 施設運営計画は大会後の施設運営の指針となるもの
- 今後、各施設の運営事業者公募にあたり、収益向上の取組や周辺との連携策など、民間事業者等から具体的提案を募り、後利用の取組をさらに充実
- 大会前の早期に運営事業者を選定し、大会後の施設運営に万全を期していく

(これまでの主な検討経過)

平成26年12月	「アドバイザリー会議」設置
平成27年6月	「新規恒久施設に係る後利用の方向性」公表
平成28年5月	「施設運営計画（中間のまとめ）」公表
平成29年3月	第5回「アドバイザリー会議」開催

2 3つの視点

- (1) 点（施設）から面（地域）へ
- (2) コストから将来への投資へ
- (3) 官から民へ

3 面的なレガシーの創出に向けて

- 新規恒久施設が集積する臨海スポーツゾーンの形成
 - ・ 「有明レガシーエリア」 スポーツ・文化等によるにぎわい創出
 - ・ 「マルチスポーツエリア」 多様なスポーツに親しめる場
 - ・ 「ウォータースポーツエリア」 様々な水上スポーツの機会を提供
- 「都市づくりのグランドデザイン（仮称）」の検討も踏まえ、地域のまちづくりとの連携を進めていく

4 環境への配慮

- 再生可能エネルギーの導入、省エネルギー技術の導入を検討するなど、環境に最大限配慮した施設としていく
(取組例)
地中熱利用ヒートポンプ、太陽光発電設備
コージェネレーション、遮熱性舗装、植栽

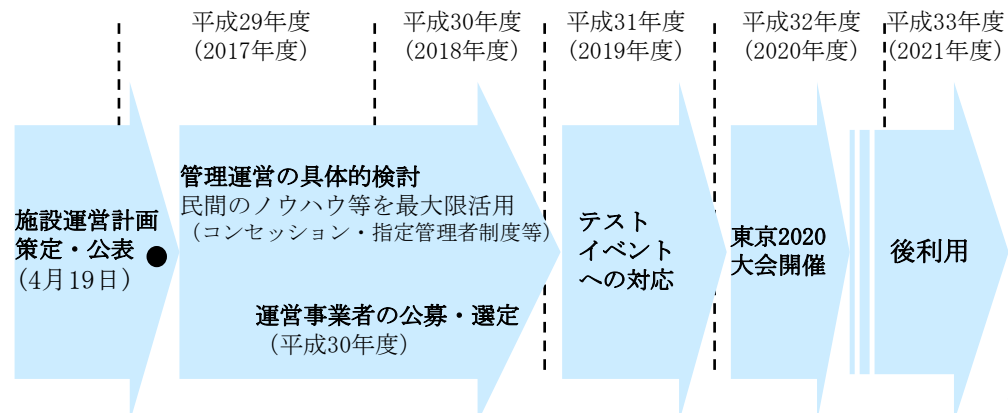


5 施設のバリアフリー

- 障害の有無にかかわらず全ての人にとって利用しやすい施設としていく
 - ・ 大会運営におけるバリアフリー化の指針であるアクセシビリティ・ガイドラインで最も厳しい基準である推奨基準を可能な限り適用
 - ・ アクセシビリティ・ワークショップで、障害者団体などから具体的な意見を聴取
- 障害者スポーツの普及促進に向けて、大会や練習、体験の場を提供

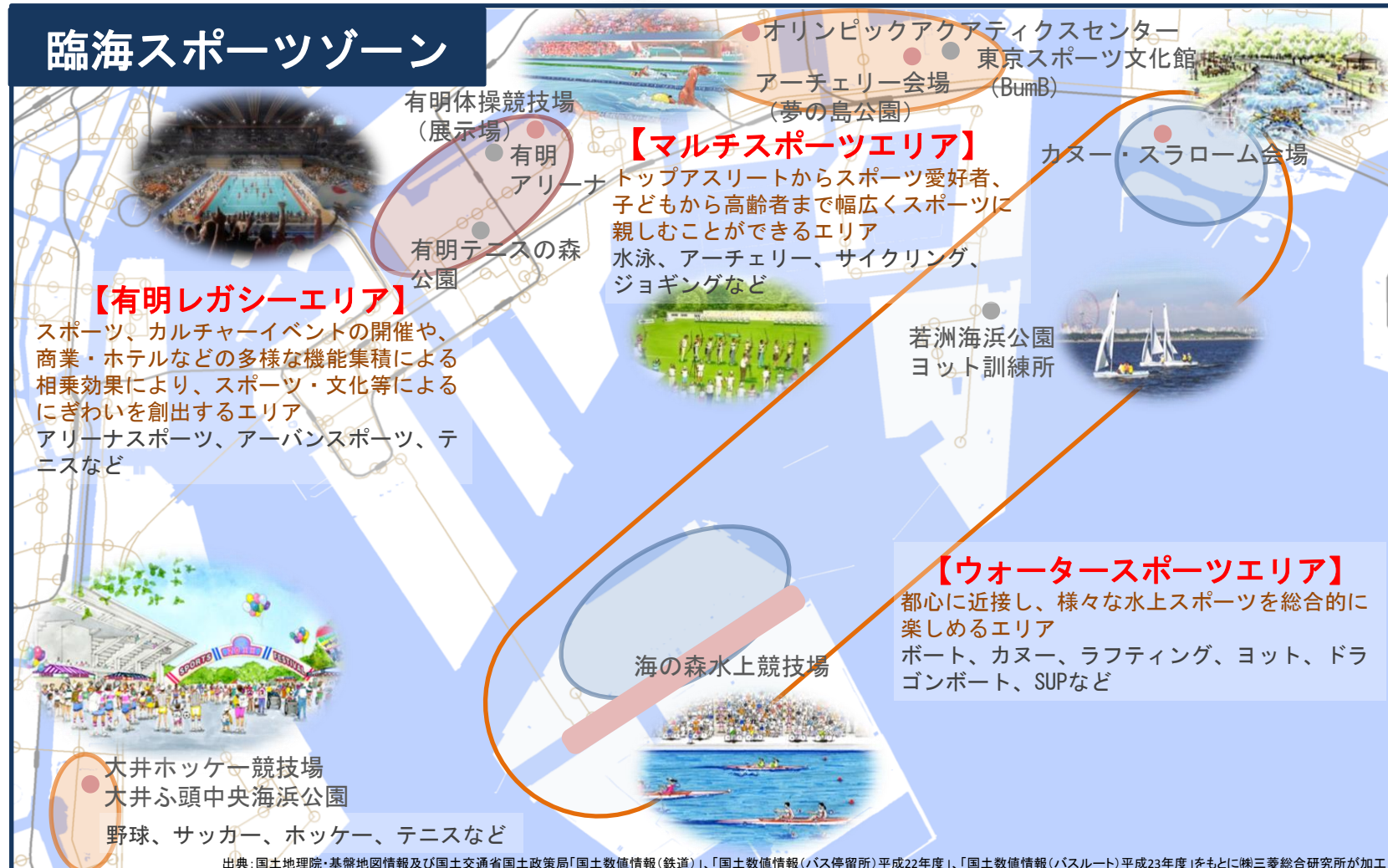


6 今後のスケジュール



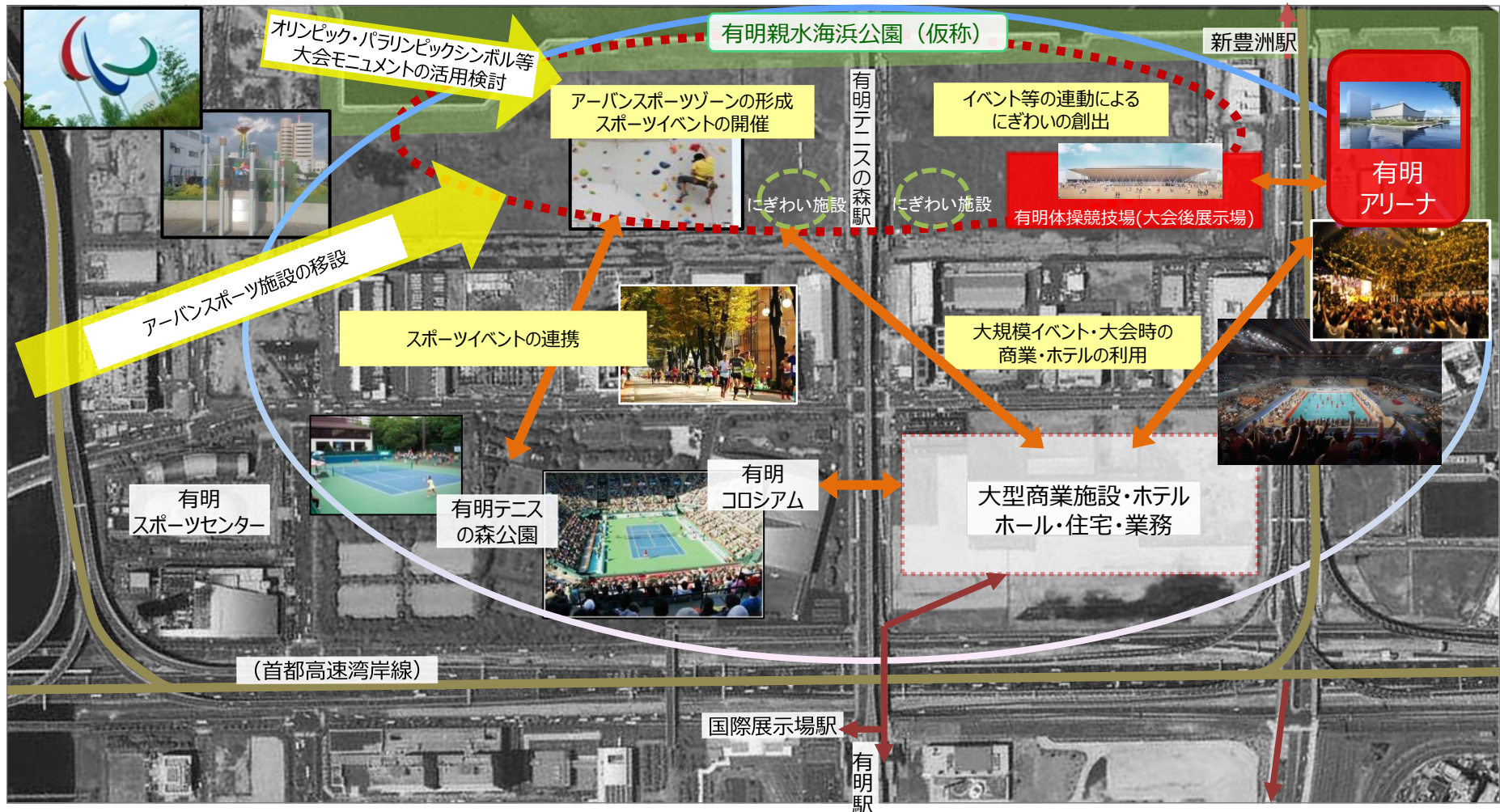
臨海スポーツゾーン

- スポーツ・文化等によるにぎわいを創出していく「有明レガシーエリア」、多様なスポーツに親しめる「マルチスポーツエリア」、様々な水上スポーツの機会を提供する「ウォータースポーツエリア」、そして大井ホッケー競技場周辺のスーポーツ施設が一体となり、臨海部における新たな一大スポーツゾーンを形成



有明／有明レガシーエリア（ARIAKE LEGACY AREA）

- 大会シンボルや仮設スポーツ施設の移設、スポーツカフェ・ショップ等の設置により、アーバンスポーツゾーンを形成
- エリア内の大会関連施設でのイベント開催や、民間開発による商業施設、ホテル、ホールなどの機能集積による相乗効果により、スポーツ・文化等によるにぎわいを創出



辰巳・夢の島／マルチスポーツエリア

- 様々なスポーツ施設、隣接する公園等が連携し、相互利用の促進や大規模大会、イベントの開催など、都民の多様なスポーツ活動の拠点として広がりのあるレガシーを形成
- 散策路やサイクリングコース等を通じた夢の島公園と辰巳の森海浜公園との連続性を確保するとともに、水辺空間を生かし、新たなレクリエーション空間を創出



海の森・若洲・葛西／ウォータースポーツエリア

- 臨海部に海の森水上競技場、カヌー・スラローム会場が整備され、若洲海浜公園ヨット訓練所とともにウォータースポーツエリアを形成
- 都心に近接し、ボート、カヌー、ラフティング、ヨットなど様々な水上スポーツを総合的に楽しめるエリアが誕生



オリンピックアクアティクスセンター

日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場

- 選手たちの競い合いを通じて、世界を目指すアスリートを育成
- オリンピック・パラリンピックや国際大会を契機に、水泳の裾野拡大と次世代のアスリート候補を育成

主なレガシー

1 後利用の視点

○アスリートファースト

- ・ 日本・東京のアスリートの晴れの舞台とし、競技力の向上を図る

目標：年間100大会

〔 国際・国内大会
ジュニア大会等 〕



○都民ファースト

- ・ 都民のための水泳場という機能も併せ持つ施設とし、子供から高齢者まで、スポーツや健康増進に取り組むことができる場とする



2 周辺施設等との連携

○辰巳の森海浜公園と一体となったにぎわいを創出し、都民の憩いの場としていく



3 年間来場者目標

100万人

- 競技利用 約85万人
(大会利用、観戦者等)
- 一般利用 約15万人
(個人利用、プール・トレーニング室・スタジオ等を活用した事業)

4 管理運営

- 指定管理者制度等による管理運営について具体的に検討
- 年間収支は約6.4億円のマイナスとなる見込み

収入 350百万円	支出 988百万円	収支 ▲638 百万円
(主な項目) 施設利用料 228百万円 自主事業営業料 86百万円	(主な項目) 業務委託費 313百万円 光熱水費 287百万円 人件費 214百万円	

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

〔 今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討 〕

- (例)
- ・ ネーミングライツの導入
 - ・ 企業広告の獲得
 - ・ 空調の運用面での効率化
 - ・ 施設の稼働率向上

海の森水上競技場

主なレガシー

アジアの水上競技の中心となる国際水準の水上競技場

- 様々な水上競技の大会開催や強化合宿等を通じたアスリートの強化、育成
- 水上スポーツ体験の機会提供等による水上競技の裾野拡大

1 後利用の視点

○アスリートファースト

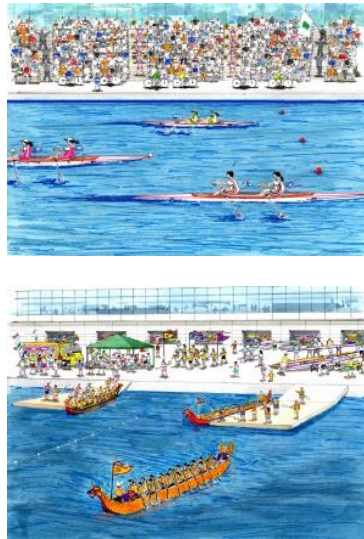
- ・ 最高峰の水上競技大会の会場として、アスリートの活躍の場となる国際大会、国内大会を積極的に誘致・開催

目標：年間30大会

国際大会
全日本選手権等

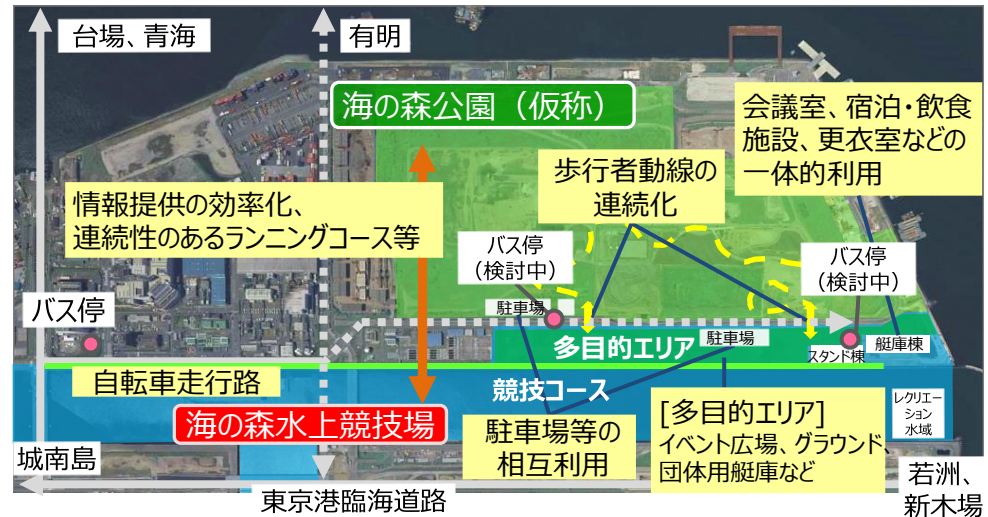
○都民ファースト

- ・ 水上スポーツ体験、水上レジャーの機会の提供、都民参加イベントの実施など多様なスポーツに親しめる場



2 周辺施設等との連携

○隣接する「海の森公園（仮称）」と連携し、臨海部の新たなにぎわいの場を創出



3 年間来場者目標

35万人

- 競技利用 約31万人
(大会、練習、合宿利用等)
- 一般利用 約4万人
(ボート・カヌー教室、都民参加イベント等)

4 管理運営

○指定管理者制度等による管理運営について具体的に検討

○年間収支は約1.6億円のマイナスとなる見込み

収入 113百万円		支出 271百万円		収支 ▲158 百万円
(主な項目)		(主な項目)		
宿泊料	49百万円	業務委託費	143百万円	
施設利用料	39百万円	人件費	54百万円	
駐車場	15百万円			

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

【今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討】

(例)

- ・ネーミングライツ導入、企業広告の獲得
- ・イベント等の開催
- ・企業研修での活用
- ・学校教育との連携
- ・公園との同一管理者による効率的な管理

有明アリーナ

主なレガシー

東京の新たなスポーツ・文化の拠点

- 国際大会など質の高いスポーツ観戦機会の提供によるスポーツムーブメントの創出
- コンサート等のイベント開催による東京の新たな文化発信拠点

1 後利用の視点

○ アスリートファースト

- ・ アスリートの活躍の場となる、国内外の大規模大会の会場

目標：年間10大会

- ・ メインアリーナに一定期間、仮設の木製床を設置し、各種競技大会等で活用



○ 都民ファースト

- ・ コンサートや文化イベントなど、魅力的なエンターテインメントを提供
- ・ 身近なスポーツ実践の場として、都民がスポーツに親しめる場を提供

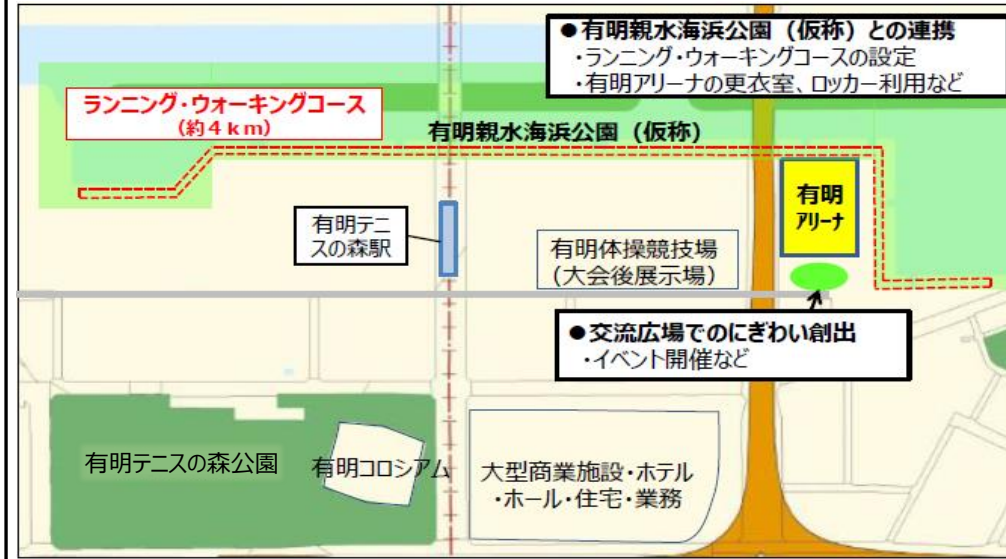
3 年間来場者目標

140万人

- メインアリーナ 約102万人
(国内外スポーツ大会、コンサート等)
- サブアリーナ 約17万人
(都民利用、小規模大会等)
- その他 約21万人
(トレーニングジム、レストラン・カフェ等)

2 周辺施設等との連携

- 隣接する有明親水海浜公園（仮称）と連携して、都民の健康づくりやにぎわい創出の空間を提供



4 管理運営

- 民間の力を最大限活用した管理運営方式（コンセッション）について具体的に検討
- 年間収支は約3.6億円のプラスとなる見込み

収入	1,245百万円	支出	889百万円	収支	356百万円
(主な項目)		(主な項目)			
施設利用料	1,074百万円	光熱水費	259百万円		
ジム・スタジオ収入	47百万円	業務委託費	225百万円		
		人件費	160百万円		

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

【今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討】

(例)

- ・ ネーミングライツの導入、企業広告の獲得
- ・ メインアリーナの稼働率向上
- ・ 特別観覧スペースの年間貸出
- ・ 周辺施設との連携による誘客

カヌー・スラローム会場

主なレガシー

国内初の人工スラロームコースを活用した様々な水上スポーツ・レジャーを楽しめる施設

- 安定した競技環境のもとでアスリートを強化、育成
- 様々な水上スポーツや水上レジャーの機会を提供

1 後利用の視点

○アスリートファースト

- ・ カヌーをはじめとした水上競技の国際大会、国内大会を誘致・開催

目標：年間7大会

（国際大会
日本選手権等）



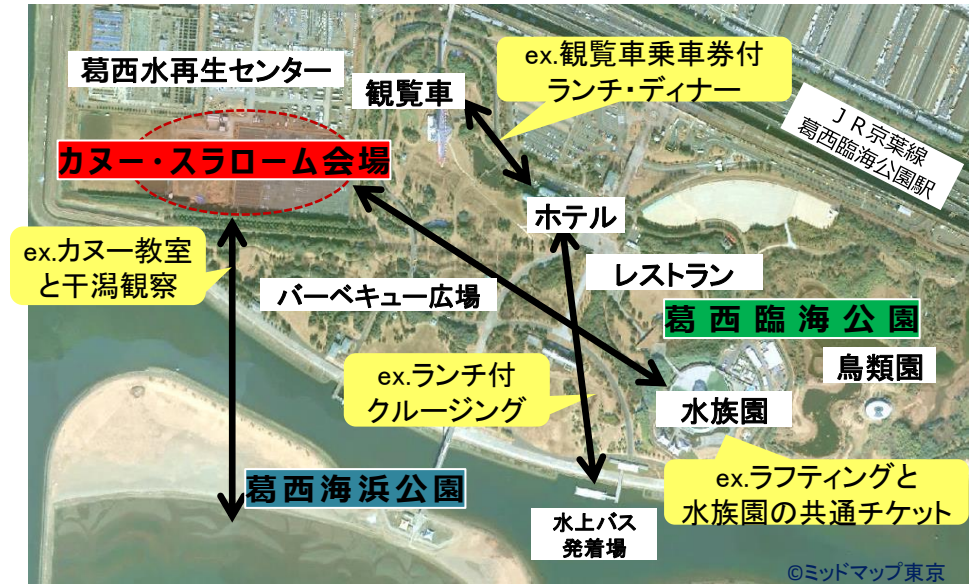
○都民ファースト

- ・ 水上スポーツ体験やラフティング等の水上レジャーの機会の提供
- ・ 水難救助訓練など、様々なニーズに応える多目的な利用



2 周辺施設等との連携

○隣接する葛西臨海公園・葛西海浜公園と連携し、にぎわいを創出



3 年間来場者目標

10万人

- 競技利用 約3万人（大会、強化練習会等）
- 一般利用 約7万人（水上スポーツ体験、水上レジャー、水難救助訓練等）

4 管理運営

- 指定管理者制度等による管理運営について具体的に検討
- 年間収支は約1.9億円のマイナスとなる見込み

収入	164百万円	支出	349百万円	
(主な項目)		(主な項目)		収支
施設利用料	156百万円	光熱水費	145百万円	▲186百万円
その他収入	7百万円	業務委託費	81百万円	
		人件費	59百万円	

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

【今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討】

（例）

- ・ネーミングライツの導入、企業広告の獲得
- ・葛西臨海公園・葛西海浜公園との連携
- ・企業研修での活用
- ・学校教育との連携

大井ホッケー競技場

ホッケーをはじめ、様々なスポーツで利用できる多目的球技場

主なレガシー

- 数少ない公共のホッケー競技場として、ホッケーの競技力強化と普及・振興の場
- 都民が幅広く様々なスポーツを行うことができる場、そして、公園内の他施設と連携し、総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点を形成

1 後利用の視点

○アスリートファースト

- ・ 国際大会・国内大会の開催を通じて、ホッケーの競技力強化、普及・振興を図る

目標：年間23大会



○都民ファースト

- ・ 多くの都民が、サッカー、ラグロス、アメリカンフットボール等様々なスポーツ大会や練習で利用できる施設として活用



2 周辺施設等との連携

○大井ふ頭中央海浜公園全体として、総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点、身近な自然とのふれ合いの場としていく



3 年間来場者目標

20万人

- 大会利用 約13万人 (観戦者等含む)
- 練習、合宿等利用 約7万人

4 管理運営

- 指定管理者制度等による管理運営について具体的に検討
- 年間収支は約9千万円のマイナスとなる見込み

収入 54百万円		支出 145百万円		収支 ▲92 百万円
(主な項目)		(主な項目)		
ピッチ利用料	36百万円	光熱水費	58百万円	
付帯設備利用料	18百万円	業務委託費	50百万円	
		人件費	5百万円	

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

【今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討】

- (例)
- ・ネーミングライツの導入
- ・企業広告の獲得
- ・公園内他施設との連携による誘客

アーチェリー会場（夢の島公園）

主なレガシー

アーチェリーを中心に、都民・公園利用者に対し多様な活用の機会を提供

- アーチェリーの主要な競技大会の会場として活用
- 芝生広場として多様な活用を図り、夢の島公園と一体となり都民に憩いの場を提供

1 後利用の視点

○アスリートファースト

- ・ 主要国内大会の開催を通じて、アーチェリーの競技力強化、普及・振興を図る

目標：年間20大会



○都民ファースト

- ・ 都民の憩いの場として、子どもから高齢者まで自由に利用できる芝生広場を提供



2 周辺施設等との連携

○公園内他施設と連携したイベントやスポーツ教室など、幅広いプログラムを提供



3 年間来場者目標

3.3万人

- 競技利用 約3,000人
(大会利用、体験教室 等)
- 多目的利用 約30,000人
(ヨガ・グルメ・音楽イベント等)
※一般開放による来場者数を除く

4 管理運営

○指定管理者制度等による管理運営について具体的に検討

○年間収支は約1,200万円のマイナスとなる見込み

収入 3.3百万円	支出 15.0百万円	収支 ▲11.7 百万円
(主な項目) 施設利用料 1.8百万円 その他収入 1.5百万円	(主な項目) 人件費 6.4百万円 管理運営費 5.9百万円	

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

【今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討】

(例)

- ・ネーミングライツの導入
- ・企業広告の獲得
- ・イベント等の開催
- ・公園との同一管理者による効率的な管理